



札幌部会(第10回)

日時:	2014年5月17日(土) 14:30-17:00
場所:	Sapporo55ビル 4階 北海道教育大学札幌校 サテライト教室
参加者:	野間(同志社大)、濱地(道教大札幌校)、川瀬(札幌清田高)、松澤(札幌開成高)、佐藤(北海道札幌東陵高)、山下(札幌市立簾舞中)、兼間(札幌市立定山溪中)、竹内(浦河町立浦河第一中)、吉岡(北見市立東陵中)、中沖(清水書院)、山崎(北海道北見北斗高)[順不同]

【内容要旨】

- 野間先生より、年次大会の報告及び夏休み経済教室の内容が紹介された。
続いて、中沖さんより、今後の教科書の記述の方向性として、資料「国際収支関連統計の見直し」に基づき、主要項目が組み替えられ、「モノやサービスの取引」と「金融・資産の取引」に整理された点について説明が行われた。
最後に、野間先生より、大阪部会の李先生の「税負担の公平性を考えさせる授業プリント」が紹介され、このことに関連して、川瀬先生より「授業のネタ研究会IN関西」、「授業に役立つ金融経済セミナー」等の研究会案内があった。
- 兼間先生より、年次大会で発表された「法教育と経済教育を中学校でどう教えるか」について報告が行われた[内容については年次大会(経済教育シンポジウム)活動報告を参照]。参加者からは、法教育と経済教育の連携が今ひとつ進まない理由として、結局、入試問題に法と経済の内容が出題されないので、結局授業も変わっていかないという意見が出された。
- 山崎より、実験的取組として行った4/17の東京部会へのインターネット会議参加の成果と課題の報告及び、東京部会で先行議論された「身近な都市問題を事例とした「見方や考え方」を深める授業開発」についての実践発表があった[内容については4/17東京部会(No66)報告を参照]。東京部会で議論となった①「中心地理論の取扱い」については、中高生にエッセンスを学ばせるには、古典的なホテリングの方がわかりやすいという点、②「市役所の立地と中心地の関わり」については、歴史的経緯を見ると、本州は町が先にできた。しかし、北海道は明治期以降、官公庁や市役所が中心となって開拓や町づくりを進めてきたことから、北海道の教材として考えるのであれば、「北海道の地方都市では政治と経済に市役所の立地は大きく関係している」という終結をとるべきという北海道の先生らしい意見も出された。このように、「市役所の立地と中心地の関わり」では、東京と北海道の先生で評価が異なり、大変興味深い議論となった。
- 川瀬先生より、情報提供として、以下の各種資料が配布され、説明が行われた。
 - JICA資料「JICA北海道 PROFILE」、「ODAの今」、「国際理解教育実践資料集」
 - 「言語活動とゲーム」、「論理的思考力」に関する日本教育新聞記事
 - 「MOOC(大規模オンライン講座)」、「反転授業」に関する朝日新聞、北海道新聞記事
 - 「日本発新教育モデル」、「達成度テスト」に関する読売新聞記事



次に、平成26年度北海道公立高校入試問題(社会)の内容について意見交換が行われた。
最後に、佐藤先生より、情報提供として、「大学進学とお金」(中京大:大内先生)の資料が配布された。

(文責:北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定:9月27日(土)14:30~17:00。場所はSapporo55ビル5階キャリアバンクセミナールーム。議題は、北海道ネタの教材交流、参加者からの活動報告、その他。